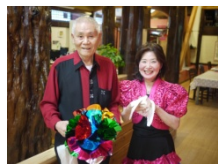


世界95カ国で約48万人の作業療法士が活躍しています。日本の作業療法士数は約8万人で、アメリカに次いで第2位、**作業療法の学生数は世界第1位です**。オックスフォード大学のオズボーン教授たちの研究では、コンピュータやロボットに代替されない職業の**上位6番目**に作業療法士が位置づけられています。作業療法士の仕事は、これからますます注目されていくと考えられます。

病気や怪我をしたあと、安静にしているだけでは回復しません。**その人に適した作業を適度に行うことが病気の治療になり、人間的にも社会的にも回復していくというのが作業療法の考えです**。歴史的には作業療法は精神病院で始まりました。現在は病院、高齢者や障害者の施設、学校、地域や行政において、さまざまな疾患や障害をもつ人々のリハビリテーションや、健康な人がより健康に暮らすためのヘルスプロモーションの分野で、作業療法士が活躍しています。

作業療法の実践例

- 食事など日常生活活動の練習
- 家事など生活関連活動の練習
- 遊び・趣味活動の支援
- 自動車運転技能の獲得支援
- 就学・就労の支援
- ハンドセラピー（手の治療）
- 福祉用具の選定と活用の支援
- 住宅改修の助言・適応練習
- 発達障害児の感覚・運動発達の支援
- 精神障害者の対人交流技能の練習



求人・進路

作業療法学科の求人および就職状況

年度	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
求人件数	740	771	755	891	876	730
求人倍率	25	26	25	28	27	24
就職率	100%	100%	100%	100%	100%	100%

就職・進学先

- 医療：大学病院，国立病院，精神科病院，総合病院，リハビリテーション病院，医院など
- 介護：介護老人保健施設，通所リハビリテーション施設，訪問看護ステーションなど
- 福祉：児童支援事業所，就労支援施設，障害者福祉施設，老人福祉施設など
- 行政：地方公共団体（市役所）など
- 企業：福祉用具貸与販売事業所，NPO法人，消防署，一般企業など
- 進学：県立広島大学大学院，広島大学大学院，長崎大学大学院など
- 留学：コロンビア大学大学院，クイーンマーガレット大学大学院など

過去の実績から

県立広島大学保健福祉学部

作業療法学科案内

人の作業を科学的に捉え、多職種と連携して的確なケアシステムを提供できる作業療法士を育成します

■ 取得可能な資格

作業療法士（国家資格）

■ 求人数と求人倍率

730件（24倍：2019年度）

■ 就職率

100%（過去6年平均）

■ 国家試験合格率（過去3年）

100%（全国平均：81.6%）



教育の特徴

心と体の障害の総合的な理解

医学、心理学、運動学、人間発達学や社会学など人の障害を総合的に理解するための知識を修得します。



地域資源を活用した課題解決学修

高齢者サロン、認知症カフェ、保育園などに出かけ、世代の異なる人と交流したり課題解決に取り組みます。



臨床実習施設と連携した教育

実習先の病院などから作業療法士を講師として招き、装具の製作実習や事例検討の演習を行っています。



附属診療センターを活用した教育

附属診療センターに通うクライアントの協力を得て、実際の治療を見学したり、補助的に参加しています。



専門性の高い実践的な卒業研究

3年次より作業療法士、医師や工学士の教員の研究室に所属し健康に関連する実験や調査研究を行います。



5学科合同のチーム医療福祉演習

5学科合同で小グループを形成し、事例検討を通してチームアプローチを学びます。



充実した臨床実習

保健、医療、福祉の様々な領域で作業療法士として活躍するための知識、技能、態度を修得します。

<p>1年次 基礎臨床実習Ⅰ (1週間)</p> <p>医療機関や児童福祉施設、デイサービス等で作業療法場面や施設を見学し、業務内容、役割やクライアントとの接し方などを学びます。</p>	<p>2年次 基礎臨床実習Ⅱ (2週間)</p> <p>老人デイケア、医院や就労施設等の通所や訪問系の施設で、作業療法の実践やクライアントとの接し方を見学、模倣しながら学びます。</p>	<p>3年次 評価臨床実習 (3週間)</p> <p>老人保健施設や老人福祉施設において作業療法の業務やクライアントの評価、治療計画について、見学、模倣、実施しながら学びます。</p>	<p>4年次 総合臨床実習Ⅰ,Ⅱ (9週間×2回)</p> <p>身体・老年期障害、精神障害、発達障害系の医療機関で作業療法の業務、クライアントの評価、治療等を模倣、実施しながら学びます。</p>
--	--	---	---

国際交流

世界の作業療法をリードする**アメリカ**、**カナダ**の研究者と交流し、来日の際には最新の研究結果に基づく特別講義を開催しています。2017年4月には、米国のノバサウスイースタン大学から2名の講師を招いて、作業科学や発達障害児の感覚特性に関する講義を受け、ディスカッションを行いました。2016年には、6名の学生が**オーストラリア**のベリーメンズシードを訪れ、高齢者のものづくりを通じた健康活動の取り組みを学びました。また、1年次生が授業の一環で**スコットランド**のクイーン・マーガレット大学の学生とメールを交換し、文化が作業に与える影響について考察しました。



ノバサウスイースタン大学の講師による講義



オーストラリアのベリーメンズシード訪問の様子

キャンパスライフ

大学祭

ステージでの余興、バンド演奏や芸能人ライブ、模擬店出展などを通して毎年盛り上がっています。



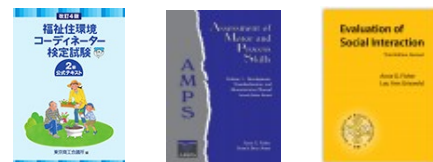
サークル活動

運動系・文科系サークルや同好会が30組織あり、活発に活動しています。



資格取得

多くの学生が福祉住環境コーディネーター検定2級の資格を取得しています。教員の支援を受けて作業療法独自の評価であるAMPS (Assessment of Motor and Process skills) やESI (Evaluation of Social Skills) の認定評価者の資格をとることができます。



学生同士や教員との交流

学年の垣根を超えて球技大会を開催したり、学生と教員の親睦を深める交流をクラス単位やゼミ単位で行っています。

